

(本時の基礎基本が明確であり、ねらいの達成の手立ては適切か)

指導案の形式を年度当初に示し、項目の中に、「基礎学力の向上を図る授業設定の工夫」を設け、単元全体を見通して、1単位時間の指導過程において工夫・配慮した点を具体的に述べるようにした。

- ・ 視点の検討。

(授業参観の視点を明確にすることで  
授業者が「実践の中で見てほしい」点  
について意見交換を行えるようにした。  
その際、教科の研究テーマを踏まえた  
内容となるようにした。)

《国語科の例》

- 1 描写を正しく書き抜くことができたか。
- 2 主題を書くことができたか。
- 3 発表の場を多く持つことができたか。
- 4 その他

【共同参観授業】(全職員)

- ・ 全職員が共通の視点から授業を参観した。  
(指導案等資料の印刷、写真記録は授業研究部)

【事後研究会】(全職員)

- ・ 共同参観授業をもとに、視点に沿った研究協議を行った。教科の枠を越えて、授業実践から教師個々の日々の悩み等を解決し、次の授業に生かす場とした。(視点の集計は授業研究部)

《 国語科の共同参観授業風景 》



2 授業以外の実践

(1) 学力向上タイムの実施

ア 内容

- ・ 国語、数学、英語の3教科とし、全学年を対象とした。

イ 実施方法

- ・ 週1回、月曜日の放課後に実施した。
- ・ 教科部会が、各教科の研究テーマを踏まえた自作問題を準備した。
- ・ 国語、数学、英語のローテーションで行った。  
(実施計画及び担当者は右のとおり)
- ・ 問題の内容⇒前学年にさかのぼった基礎・基本問題とし、難易度はクラスの中位が20分程度でできる問題とした。(前日までに作成)
- ・ 実施の手順

《教科委員がプリントを配布》⇒《問題を解く》(教え合う雰囲気づくり、担当者は机間巡視をし、下位生徒への支援をしながら個別指導を行う)⇒《教科委員が解答を提示》(正答確認)⇒《解答用紙を回収後、下位生徒の追指導を行う》(担当者が教科担任や学級担任との連携をはかる)⇒《解答用紙を教科部会に渡す》⇒《教科部が定着度を把握し、指導の参考にする》

《 学力向上タイム実施計画 》

月日	教科	1年	2年	3年	月日	教科	1年	2年	3年
9-22	国語	三戸	菅野	緑川	1-12	国語	三戸	菅野	緑川
9-29	数学	渡辺	横山	田中	1-19	数学	渡辺	横山	田中
10-6	英語	三戸	菅野	河原	2-2	英語	三戸	菅野	河原
10-13	国語	三戸	菅野	緑川	2-9	国語	三戸	菅野	緑川
10-20	数学	渡辺	横山	田中	2-16	数学	渡辺	横山	田中
10-27	英語	三戸	菅野	河原	2-23	英語	三戸	菅野	河原
11-10	国語	三戸	菅野	緑川	3-2	国語	三戸	菅野	緑川
12-1	数学	渡辺	横山	田中	3-9	数学	渡辺	横山	田中
12-8	英語	三戸	菅野	河原					

(2) 1分間スピーチの実施

- ア 毎日の帰りの学活の中で、原稿用紙1枚程度の内容で発表させた。指導は、学級担任が行った。